

氏名	志摩 梓
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第163号
学位授与年月日	平成25年3月7日
学位論文題目	就労集団の血圧とその後の医療費、および高血圧者の 外来受診頻度と降圧目標達成割合

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	168	(ふりがな) 氏 名	しま あずさ 志摩 梓
修士論文題目	就労集団の血圧とその後の医療費、および高血圧者の外来受診頻度と降圧目標達成割合		
<p>高血圧は循環器疾患の最も大きな危険因子であり、壮年期からの血圧コントロールの重要性が明らかになっているが、壮年期における高血圧の受療率は低いことが知られている。壮年期の高血圧コントロールに資するために、以下の2つの研究を行った。</p> <p>【研究1】健康診断における血圧水準はその後の医療費に影響するか 目的：これまでに、血圧水準が高いとその後の医療費が高額となることが示されてきたが、女性や壮年期の者を多く含む集団での検討は不十分であったことから、壮年期を中心とする集団で、高血圧者における医療費増加額を明らかにすることを目的とした。方法：某健康保険組合と母体企業の協力を得てデータベースを作成した。ベースライン健診の血圧水準を独立変数、その後8年間の医療費（総医療費・医科医療費・外来医療費）を従属変数とする共分散分析を性別に行った。結果：性別に関わらず、医療費は stage2 高血圧群で上昇したが、増加額は一人月額 2～3 千円にとどまった。正常血圧群・前高血圧症群・stage1 高血圧群間の医療費には有意差が認められなかった。考察：stage1 高血圧・stage2 高血圧の医療費増加が少ないことから、適切な降圧治療を受けている者が少ない可能性が示唆された。</p> <p>【研究2】高血圧者の外来受診頻度と8年後の目標血圧達成者割合 目的：壮年期を中心とする高血圧者について、その後8年間の外来受診頻度別の受療状況を調べるとともに、8年後の降圧目標達成者割合が受診頻度により異なるかを検討することを目的とした。方法：高血圧者について、8年間の医科外来診療日数四分位階層を独立変数、8年後の目標血圧達成有無を従属変数とする多重ロジスティック回帰分析を行った。結果：外来受診が年数日の低頻度受診群では8年後の目標血圧達成者割合が2～3割であるのに対し、年に20日程度受診している高頻度受診群では、目標血圧達成者が低頻度受診群の約3倍であった。考察：低頻度受診群には早急に受診勧奨を行う必要があることが示唆された。高頻度受診群ではより目標血圧達成者割合を高めることが課題だと考えられた。</p> <p>【総括】 壮年期の高血圧者における受療は不足し、血圧コントロールも悪い現状にあるが、その中で高頻度受診群の血圧コントロールは良好であった。未治療者に受療を働きかければ、短期的には医療費が増加する可能性がある。しかしながら、血圧コントロールの改善は将来の重篤な心血管イベントや入院に伴う医療費の抑制につながる可能性もあり、受診頻度情報をもとに未治療者に受診勧奨を行う必要があると考える。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
 2. ※印の欄には記入しないこと。